

素のままの美しい暮らし Sobibo を長年希求してきた。国際連合が提唱する持続可能な開発目標 SDG's には敬意を持つとしても、それをただただ遥拝する気はない。世界の若者が、大人を許さないとか、地球温暖化に対処せよとか主張するのは当たり前ではあるが、それでは、あなた方も過剰な欲望を自律制御するのかと問いたい。自由や民主主義に信頼し、生活様式の画一定型化を強要しないとするのなら、本質的にはラジカルな環境学習に基づき、個々人が過剰な欲望を自律制御することだと考えているからである。日本に限らず、これまでの世間は掛け声ばかりで、良くて第一歩に留まり、なかなか第二步へと移行変化を進めないのが世の常だ。きれいな SDG's バッジも免罪符のように見えてしまう。

人新世における文明の病弊の根本要因は自律できないほどに膨れ上がった過剰な欲望である。科学技術の発達で、何もかもがいずれ解決できるということは、恐らく間違いだらう。過剰な便利への欲望は限りないからである。自由、任意に個々人が質量の異なる欲望に、強制によるのではなく、第七感（良心）を育み、自給知足することを学び、自律的に制御しないことには、根本的な解決はない。

同様に、大方の人々が実は薄々分かっている、口を閉ざして思考を停止しているのはパンデミックの根本要因のことである。パンデミックという用語は一般的には感染症が世界的に流行することを意味するが、何らかの事象が世界的に流行する意としても用いられる。後者の用法の視点を逆転させて、病原菌以外に敷衍すれば、人間の人口爆発や穀物や家畜の膨大な単一栽培・飼育も他生物にとってはパンデミックとなる。

さらに鶏が鳥インフルエンザ、豚がコレラ、イネがいもち病になるのも、穀物にサバクタビバッタが襲うのも、パンデミックであろう。すなわち、人間の欲望による文明の過剰な拡大によって、諸々のパンデミックは生じているのである。

人間への COVID-19 のパンデミックだけに注目が集まって、見過ごしているようだが、他の種のパンデミックも進んでいるのだ。現在に生まれた人々の命の尊厳を護るのは最重要であるから、人間が COVID-19 に感染したからと言って、何百万の家畜や野菜の様に人間を殺処分して地面に埋めるようなことは決してありえない。それならば、将来に向けていかに人口を減少させるかが課題になる。激増し続ける人口が、自由と民主主義のもとに強要や強制なく、ゆっくり適正規模になるには、環境学習によって心の構造と機能を統合するように情理を承知、自給知足し、過剰な欲望を亢進から穏やかにすることであろう。

たとえば、物欲を多様な趣味の充足へと、精神性豊かに心の構造と機能を転換することだ。自然文化誌研究会が調査、研究、学習実践してきた成果である ELF 環境学習過程を中心にとりまとめた環境学習原論は人新世を生き物の文明へと移行するにはとても有効な人生哲学である。

学校で教えてくれなかったと弁解するのではなく、学校教育に依存しないように、自分で任意に学習することだ。学校では教えない現実が沢山あるのだ。学校履歴などに依存するのではなく、自らの学習履歴こそ、自由、平等や友愛を保障するものだ。素のままの美しい暮らし sobibo に移行する幸せがそこから始まる。